

03

JR西日本 キハ189系

特急用気動車の開発

JR West KIHA189 series

Development of new diesel train
for limited express service

デザイン学科・教授
Department of Design・Professor

木村 一男 Kazuo KIMURA

近畿車輛株式会社・デザイン室
The Kinki Syaryo Co., Ltd. Designing Dept.

西日本旅客鉄道株式会社・車両部
West Japan Railway Company, Rolling Stock Dept.

プロジェクトの概要

JR西日本のキハ189系特急用気動車は、1968年から全国で特急列車として大活躍したキハ181系の後継車両として、42年ぶりに2010年に登場した車両である。

そのエクステリア・デザインは、先頭部はキハ181系の風貌を継承しながらも、やや後退した前面窓、円形にくりぬかれたヘッドランプ回り、前面窓下部をエプロン状に塗り分けることによって、新しいイメージをつくりあげた。外板色は、ステンレス車体に落ち着いた茜色と白色の帯を配することによって、走行する日本海沿線にマッチするものとした。

インテリア・デザインは、1992年に登場した北陸本線の特急電車681・683系「サンダーバード」でつくりあげられたJR西日本のインテリア・スタンダードをほぼそのまま引き継いでいる。即ち、電球色蛍光灯による間接照明、フルカバーされた荷棚、今では珍しくなったブリーツ加工された横引きカーテン、細いアルミ縁で囲まれた窓框などによって、時間の流れによってつくりあげられた洗練された車内空間を構成している。座席には、シートバックの大きいテーブルと合わせ、アームレスト部に小テーブルを備え、向かい合わせで使われる場合の便に供している。

客室内の情報案内標示は大型化されて見やすくなり、身障者対応の多機能便所と多目的室を設けるなど、ユニバーサル・デザインにも配慮されている。

車体は、軽量ステンレス構造だが、先頭部は鋼製で万一事故の際にも乗客への影響が最小限となるように、各部の接合強化、板厚の変更などを行うとともに、対抗車両との衝突に対して車両に後退角を設けることによって、車両が互いに正面から衝突することを免れるようにした。

このキハ189系は、2010年11月から大阪～姫路～和田山～鳥取を結ぶ特急「まつかぜ」として、営業運転を開始した。

【仕様】

- ・主要寸法 連結面間距離:21,300mm
車体最大長さ:先頭車 20,870mm
:中間車 20,800mm
車体最大幅:2,900mm
車体最大高さ:3,650mm
- ・最高運転速度 130km/h
- ・車体構造 ステンレス鋼製溶接構造(前頭部は鋼製)
- ・駆動機関 直噴型ディーゼル機関
形式:SA6D140HE-2/台数:2
- ・台車 軽量ボルスタレス台車
形式:WDT66/固定軸距:2,100mm



写真1:キハ189系の外観



写真2:キハ189系の車内



写真3:1968年より活躍したキハ181系



写真4:電車特急と統一化された運転台